

一般質問の概要

平成 25 年第 2 回 二宮町議会定例会

1 日目 6 月 12 日（水）午前 9 時 30 分～（近藤、桑原、二見、三橋 各議員）

No	質問予定議員	質 問 概 要
1	近 藤 行 宏 議 員	二宮町地域公共交通計画の展開について （放映件名：二宮町地域公共交通計画の展開について） 町の地域公共交通の目標を達成するための施策の立案にあたり、基本方針 6 項目を挙げ、「施策の推進は関連する施策と連携し、行政、事業者、住民等の関係者が連携・協力して行う」とあります。 この基本方針を踏まえての施策、実施となる訳で、注目すべき施策について伺う。 ①コミュニティバスの再編について ②今年、10 月から試行導入のエリア型デマンドタクシーについて ③公共交通のバリアフリー化について ④交通結節点の利便性向上について ⑤公共交通の情報提供について
2	桑 原 英 俊 議 員	二宮駅北口周辺のさらなる整備と、通学路の安全対策並びに、高校生の自転車のマナーについて （放映件名：通学路の安全対策と高校生の自転車のマナー） 平成 25 年 4 月 1 日から、二宮駅北口周辺の広場に車両専用の転回場所を設け、町道 27 号線、二宮小学校下に、信号機が新しく設置され、交互通行として、新たな道路整備がされました。 国土交通省からの通学路の交通対策の例を見ると、無電柱化、自転車通行空間の確保、歩行空間のバリアフリー化等の関連する施策の連携が大事になります。 本年度は坂本町長の施政方針に挙げられています様に、「子育て元年」を宣言し、子育て支援部門を新たに設け、二宮町は子育てに力を入れております。その為に、安全を確保し、安心して通学が出来る様に、家庭・地域・学校・行政の共同で連携をしていきながら、子ども達の安全・安心な日常生活を見守り、子ども達の通学路の安全を確保して行かなければならないと思います。 そこで、二宮駅北口周辺の、通学路の安全性について質問をいたします。 要旨 1. 二宮駅北口広場の暫定整備が完成し、信号機が設置されたことで、交通状況がどの様になり、特に安全性について課題等を生じているのか。また、教育委員会として子ども達の動向の把握と、PTA の方や現場の生の声を把握していただけると思うがお尋ねいたします。 要旨 2. 駅前の交差点はいつか事故を起こすと言われていましたが、5 月 13 日午前 7 時 50 分ごろに高校生が、横断歩道を渡ろうとした歩行者にぶつかってしまい、この様な事故が起きてしまいました。高校生の自転車のマナーの悪さは、いろんな人達から話を聞いております。自転車走行マナーへの対策を防災安全課としてどう考えているのか、お尋ねいたします。 要旨 3. 鈴木歯科医院横の通学路は私有地で、通学路として教育委員会が認

		定しております。地主の方々の温かいお気持ちで、通学路として認めて頂いております。30年目にして、ようやく整備が出来ました。整備した後の利用状況をお尋ねいたします。 要旨 4. 二宮駅北口周辺のさらなる整備について質問させていただきます。二宮町としては、通勤者・通学者の利便を図る為に、二宮駅東側カルチャー亭の送迎乗降場所から駅を利用する際に、雨に濡れない様に考えられているのか。歩道に屋根の設置を検討してもらえるのか、お尋ねいたします。
3	二見 泰弘 議員	二宮町民の安全・安心のための、災害時における町民への情報伝達について問う （放映件名：災害時における町民への情報伝達について） ①防災行政無線の町内難聴地域の実態把握と難聴地域解消に向けての対策を伺う。 ②防災行政無線の停電時の対応について伺う。 ③高齢者や障がい者等の災害時の伝達方法について伺う。 ④難聴地域や災害時要援護者に対する防災行政無線の戸別デジタル受信機の助成について伺う。 ⑤緊急速報メールの活用状況について伺う。 ⑥災害時の救急隊と病院との連絡方法について伺う。
4	三橋 智子 議員	町民のいのちとところを守る対策を問う （放映件名：町民のいのちとところを守る対策を問う） 日本の自殺者は1998年に急激に増え、その後14年間連続で3万人を超えた。これは国際比較においても極めて高い数字となるため、国は2006年に「自殺対策基本法」を制定し、この異常事態の対処を始めた。施行から5年が経過した昨年8月には、「自殺総合対策大綱」の見直しを行っている。 神奈川県も国の動きを受けて、関係機関と連携し、さまざま対策を打ち出しており、県下の自治体においても、行政や議会、または各種団体などが、それぞれに知恵を出し合い、この最悪の状況からの脱却に挑戦をしている。 二宮町としても、国や県の動きを判断しながら、その対応を図っていることと考え、以下5点の質問をする。 1 町の現状をふまえた、自殺防止対策の方針や見解を問う。 2 自殺未遂者や、自死遺族の支援について問う。 3 自殺者の約半数の原因とされる精神疾患、特に「うつ病」対策として、「こころの体温計」の導入が有効とされるが、その見解を問う。 4 早期発見のために、自殺者の気づきを目的とした「ゲートキーパー」の養成が必要とされているが、その対策は考えているのか問う。 5 近年、若者の自殺が増加している。教育現場でいのちの大切さを学ぶ重要性が再度問われているが、現状をふまえた、今後の見解を問う。

5	根岸 ゆき子 議員	子育て元年にあたり、国立小児病院跡地の整備方針について問う （放映件名：国立小児病院跡地の整備方針について） 国立小児病院跡地は、平成16年に土地の購入、平成18年に子どもの館全体基本構想を策定したものの、町長交代をうけて計画は凍結されていた。新たなテーマをもって漁港整備と一体にした計画整備が検討されてきたが、明確な方向性は打ち出すことができなかった。平成24年9月議会において、にわかに子育て支援のために跡地活用の方針を打ち出し、26年27年で子育て支援施設整備事業に取り組むという保育所機能を備えた新たな子育て支援施設を整備するため検討をおこなっていくということが明らかにされた。小児病院跡地については土地の買い取り後から毎年のように質疑が行われてきていて注目の高い場所でもあり、組織的検討がどうあったのか、現在の判断は何に基づいているのかここにきて明確な説明が必要だと考える。町では平成23年には旧国立小児病院跡地利用庁内検討委員会で議論していると答弁しているが、その検討結果が公表されないまま新たな方向性を打ち出すことでプロセスが見えなくなっている。改めて庁内検討委員会の議論の経緯と結論の説明を求めます。今年は町民の意見も入る委員会を進めるが、どのように施設整備に結びつけるのか今後について伺う。
6	脇 正文 議員	学童の保育のあり方について問う （放映件名：学童の保育は町民の要望に応えられているか） 社会の多様化は急速に進み、児童を長時間預け仕事に出る保護者が増えていく。 現在二宮町では放課後の学童保育と、町社会福祉協議会のファミリーサポートセンター主導の相互援助活動として、朝と放課後の児童の預かり等が行なわれている。この施策は誇るべきものと思うが、現在、保護者の要望に対して応えられているか、また将来を見越して、今後行なおうとしていることはあるか、子育て元年を謳い、定住促進を進める町としての考え等を伺う。 1. 学童保育に通う児童について近年の傾向を伺う。 2. 保護者の要望に対し学童保育はどれだけ対応できているか伺う。 3. 今後の学童保育に対し町が考えていることを伺う。 4. ファミリーサポートの相互援助活動の内容と現状を伺う。 5. 町長が定住促進を謳っているが、これをその施策の一つとして行うならば町ではこの施策のどこを町の目玉として、町外に発信しようとしているのか考えを伺う。

7	浅 賀 一 伸 議 員	デマンドタクシーの導入について問う （放映件名：デマンドタクシーの導入について） 1) 地区別アンケートでは関係住民の意見を十分聞いていると思えないが、町はどう捉えているか。 2) 予算について、総合的に見てどれくらい支出を抑えられると考えているのか。試算を示されたい。 3) デマンドタクシーの利用者負担について、350 円が往復で 700 円。それを日常的に払うというのは、利用者からしたら大変な負担。町はどう考えているか。 4) 平成 23 年 12 月議会の一般質問で、真鶴町では「中型バスを使い、利用者負担はナシ（募金箱を設けるのも良いと思う）で、ルートは決まっているが、好きな場所から好きな場所まで乗れる。町の持ち出しも割と安価で済む」形をとっている、ということを紹介し提案を行った。この質問への感想で、町民の方からも「ぜひやってほしい」という声ももらっている。 改めて、町はこういう方式を取り入れるべきと考えるがどうか。 国が公務員給与と交付税の削減を天秤にかけることについて問う （放映件名：国による公務員給与削減の押し付けについて） 1) 地方自治体の給与は地方で決めるという独自性を守り、「国や県の圧力に屈せず、今回のような決断を下されたことは評価したい」。 ぜひ、今後もこの態度を堅持していただきたいと願う。 町長の考えは。 2) 国会では、日本共産党議員はこの法案への反対討論で「地方公務員給与 7.8%削減を前提に、一律の削減をかけて交付税引き下げを算定したことは前代未聞のやり方だ」と指摘し、「地方固有の財源を勝手な基準で削減し、自治体給与にも手を出す強要はやめるべき。」との態度を示している。 町長も町を守る観点から、国に対しペナルティを止めるよう強く求めていると聞きたいと考えるがどうか。 3) 総務省が発行している決算状況カードでの数字を見ると、職員の給与は下がり続けている。これ以上下げるべきではないと考えるが町長の見解は。
8	小 笠 原 陶 子 議 員	高齢化社会の中でのまちづくり （放映件名：高齢化社会の中でのまちづくり） ①地域福祉を担う、組織や人々や役員が高齢化していくが、それらを支える制度やルールの見直しや再構築が求められている。町の支援策を伺う。 ②二宮町町民活動推進条例は平成 18 年 3 月に制定され、町民のボランティア活動を積極的に支援してきた。その成果と課題を問う。 ③自治基本条例制定の考えはあるか。

備考：12 日（水）の 2 番目～4 番目、13 日（木）の 6 番目～8 番目の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。